



新著聞集

壹

^ 13  
115  
1-8









此書は、いさぎよく世に行ふもの紙めりありと云ふ  
 以て、此説を、集先を、集録を、まは、集中人物の  
 姓名、年、月、日、を、詳し、記し、て、未だ、有、の、録、書、也、

# 新著聞集

全部 十八冊

浪華

群鳳堂 群玉堂 梓

## 新著聞集

目錄

- 一卷第一 忠孝篇
- 一卷第二 慈愛篇
- 一卷第三 酬恩篇
- 一卷第四 報仇篇
- 一卷第五 崇行篇

門  
 號  
 卷

同  
 書

慈愛



一卷第 六

勝 蹟 篇

一卷第 七

勇 烈 篇

一卷第 八

儻 奸 篇

一卷第 九

崇 厲 篇

一卷第 十

奇 怪 篇

一卷第 十一

執 心 篇

一卷第 十二

寬 鬼 篇

一卷第 十三

狹 生 篇

一卷第 十四

殃 禍 篇

一卷第 十五

愚 智 篇

一卷第 十六

清 直 篇

一卷第 十七

俗 談 篇

一卷第 十八

雜 吏 篇

總目錄止



新著聞集

忠孝篇第一

忠臣鉄火の甲と焼す

兄弟のうて去利支丹了

擯駕門外

三人と進慕して三番了り方

百姓甚助孝悌して家富

存母了ハ孝を尽く凶父ハ純也

勢別らぬ山父兄の歌とらり

一巻第六

一巻第六

一巻第六

一巻第六

一巻第六

一巻第六

一巻第六

融境鑑

融境鑑

融境鑑

融境鑑

融境鑑

融境鑑



後醍醐遺臣が取義討

大坂の御難に慕い自滅す

母をいさめ水に入ら

極悟乃臣討て待て賊を斬す

叙考了也父母了見んるや新求す

徳川集  
徳川集  
徳川集  
徳川集  
徳川集

忠臣 赤火の中を焼す

明智日向守殿乃頼晒れし何者やん

盗の責議甚しし内御座候はし

浪人きしうに又御しり日向日守乃老臣

妾羞内系女が取あらしと訴へしうは頼て内系女

と云ふまの御しり内系女威儀を

込の外れも多しと云ふ大坂おさへ

御合する御しり此君御意を遣せ

御しり此の御しりいづくも











かの兄弟と保科肥後もくへと玉のり一と也

擴駕門外

幸甚上野女多く驚了繁たわら上秋強正左屋番乃  
裏門よりかき入まらけりて垣田五左衛門といふ者腹  
らちきくをせ走り出驚やあまのよき上野殿より  
海女めま又了ておつし海セバく上秋乃家ハ又  
あまハかつれまわ所推舞ハけ家乃底了成ん  
まくとまやうまのよきし歩了てあせし  
眼ぞつしおてしりしはりふも遅うさうと

歩了てみり白り一とま

三人と追慕して三書新了り

はる銀生平燈在は多ハ家ま乃悪めにいりて仔を  
三書新了り配治せしけにむつこの海と慕し  
よめ三人のつらきとあしといふよりして今一度  
海いさんと越あつらや碎き茶とめりし和  
曹いし体賊方小筆系産美各の地乃水と  
知て三書のまよりの和とまらるは海一筆  
羽ませし送らまのあまのぬいせ教乃乃美







基乃ら希きして俚言一負ゆらどややにほづのい  
やりしを左やも不便乃るに好しい兄をせり  
きり所る年お秋夜更しして澗水より田比多  
よりおく切々大きく泣く変りし基助が取  
かすじしも痛ゆりむらゝ種をさめゆるとも  
よく立しうは成友中村平氣見かゝりてし  
まゝるのに所らばをあひし一語へあひし  
目付味の人うそ返るにいとじきり也急か  
基乃をよひせりて所らしみ地の奥基助がゆわに

芝家の人母と詔をみりしそのりらに誇る  
一人のまゝおりにて登慈の御とく一聖相  
母ももをきまのりもは夢又ゆりしと泣く  
うらなまの島山郡のまひらうまをきまはわりし  
うば預ておひしし母もいりくおひ語ら  
兄もよぬいりしけりある地の日お目撃を目に  
て國守寺の傍に人妻はらうりしうらむと孝  
のふのありするまを殿了も清と悪くし  
家老のせんも列座し末のまへ基乃をよび電



いふお水のゆめとすじも遠くはぬゆり  
身としくもまぬ兄了孝悌や都せし  
はく天乃冥助了おぢ人王法慶美とて  
うかく田畑とるりし文ふいしく  
ゆゆ河口郡大峯柴末村内地分甲方  
うむ船の三反都合六反係義三孝悌  
之行永代崇之素より僻比之民雖不  
知至孝悌之教深に天質之善好哉  
郡中皆玉称其美是亦天之志也故

天録賞之者也  
光政判

承應三年十一月十三日

柴末村  
甚助

かくのちるも慶方乃法恩賞を拜せし  
ましましゆく若しやろせんそ一日  
又換目山田市多たわろし











































すや 龍河がそのの娘をえりし 子孫殿の言  
上り 伴の一封でひら布が 大坂の集のそとくを  
歎く 自づく 惟名 亥解 ハヤすし たるどぞ  
脇方 治まてくろく 記し せり 進めし 小誰  
の 紙かく 二時を ちり 葉く へまじく 漸く 伝出の  
し くるり ぬくまに ちり ちり 思ふ やと 皆へ 感  
あへ ぬ人の 子の 華へ 云合 せし 松山の 内へ 三  
はめし いか して 進退の 人の 為と せし けり あり けり  
進退の 進つし けり けり 君堂と けり けり けり

ぬへ へえ 上方の 西帳面 せり さん とも せり し 大坂の 下  
り 張つて ぬ 古 百 名 とも さん とも ね けり けり 聖土の 下  
せり せり へり ちり せり せん のり けり けり けり けり けり  
了て ちり 立 けり けり けり 三 大 坂 けり けり けり けり けり  
し けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり  
侍ハ けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり  
を けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり  
て けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり  
只 不 自由 せり けり けり けり けり けり けり けり けり けり けり



































申すにぞんじし老人のまのうらみけしんて  
一刀で討つてはわくの首とせしりし中へ  
三平とありし男とびては入おしりし  
そのまじりしはけいひの舟大勢のまの肝で推  
ちりしりくそとくせり増しりしりも候り  
此のまじりし歩つたれど中家とてしりし目  
せりしりし友と少ぬましりし経よりし人の  
首ハ方ハせぬまのまの類てりしりしりし  
まじりしりしサア今し他お島の笛とてまじりし

懐中より小笛一管つては吹しりしを言ひしに  
群りし者も毛一管と笛と吹合せ皆く  
一程とありしは笛と吹しりしりしりし大勢  
とありしりし退きりしりしりしりしりしりし  
了りしりしりしりし三平りしりしりしりし  
大まじりしりし大長刀と水車りしりしりし  
りしりしりしりしりしりしりしりしりし  
上りしりしりしりしりしりしりしりしりし  
まじりしりしりしりしりしりしりしりしりし











所金の御座家もそのいびにても候をいひしに候  
ゆれきくつ新しき事し御禮も所をいひ  
の候つてつて入存し候ども君是の誓やも  
天とてつてくへつてびのみ候し候ども  
惟もはひひへつてつての書にせ絶ん志事せに  
少候し新元元後若しんけんのいひもつてつて  
初りいひまうつてのいひに候し候ども  
十日の御座内廷院長御家  
右口上書三通あつてつて一通ハ右殿入候中きには候し

至一通ハ伯耆守あへつて冬一一通ハ泉無寺へつて冬  
せしとつて伯耆守あへのつてハ口上の候つて候りぬ  
是のいひ進せしつてつて候りぬ候りぬ  
中候し老中へつてつてつてつてつてつて  
おまのへつてつてつてつてつてつてつて  
首とつてつてつてつてつてつてつてつて  
これハおも達中へつてつてつてつてつて  
あつてつてつてつてつてつてつてつて  
はつてつてつてつてつてつてつてつて



蕭くゝる易水くくびゆりありとのらと口ぐに  
はぶやきく新後望うう一町へすむの地あり  
泉無寺く一社にきよなり無業内ふし口内より  
あゝ内区比の廟をう何作してあゝの地あり  
首で其く入れ内区比の重代の長刀一うおんて  
内をぬこれと献ぐ改てせよはあゝとつて定て  
法を恨るゆうつんとくゆあをせまゆびぬ逢る  
照映しきぬしく舞壇とくしるるへといひも  
河つと流候しあれを甲午余人の者もとら一由よ

男はくくを信するありて寒きまのあしうて堅氷も  
賢くしすべら比るるよ素肌く足ぬの地あり  
寺の大庭くもまき火く車坐くあゝゆうあり  
あゝらに粥りくまあてそてあせし何者くゆひ  
ゆうらん上級強ふあゝ地まのりれが首せうとひり  
あゝあをとりくあゝあゝゆあゝあゝこれあゝ  
りりえをらむいよあゝあゝあゝあゝ一軍し  
あゝあゝの目せあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ



つらきことなむしうとれを詩文和歌誹諧句になむし  
つ云すてぬ

絶句 序アリ是也畧了 木村屋左衛門貞坊

身寄寒雲東海東 命徳恩義世塵中  
看花飲酒踏幾歲 時哉曉天霜雪風

華燈和女夜成

武家のあはれしふふまゝくもや吹雪道とせし

補清 則休

人の世の存しつははななくとも流る雪はもや海とまき

放水を墨絵包秀

やめにははひ雪のつらさの雪梅くま

大なる海ふ大雄

山とゆくちかきもあておの雪

中にも既打唯七武堯の徳白くハ雙親川

散は了在とくふ白りしとくやお後の白きう海

所へすてくろくおれ白く山の端へかしく以細川

執中ちかき松平源次郎との毛利甲斐守との出陣

臨陣あよりしてしうひのふるの野しくりて素也



三首先出たりすこと一巻一巻とていひぬるれど  
終におもひしはゆのま言言つたはゆゆと  
清公候りつたせももま因におもふゆと  
おはしまるゆとつたゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
まゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
泉無寺へまゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
了て折る人ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
別らゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

上世とし下目付水船中舟友同役終末ゆゆゆ目付  
系千人ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
大名ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
立候ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
てゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

家老 大石内蔵久良雄 年四十四 禄千五百石 郡代 若田忠房 兼元  
物政原 惣左衛門元石 御用人 序長源次郎 兼房  
大目付 乃原久美正明 系守 少将寺十内 秀和  
物政 碓貝十多丸 守 寺の長老 坊部 兼元 兼房



玉給景政御白之旨之教

馬内り 富森物方 西国

駿河内り 青垣源兵衛重賢

日 大石流兵衛 信法

近江勘吉 山重

之れと野下竹中亦同

大石之親良金

馬内り 中村勘助

駿河内り 菅谷甚之丞政利

武具治 奥田孫兵衛重賢

馬内り 河原甚兵衛 光延

上日 矢田五郎兵衛 勘武

日 子水甚兵衛 信光

之れと野下竹中亦同

駿河内り 堀内甚兵衛 武庸

馬内り 石坂勘吉 西後

日 子水甚兵衛 光延

日 尾野全兵衛 包秀

美濃内り 貝兵衛 友信

甲斐内り 甲斐甚兵衛 十人

馬内り 高橋甚兵衛 友樹

全内り 赤松伴助 宗彦

多内り 松地十平次 少房

日 橋田新兵衛 政重

注 山内甚兵衛 秀富

監物 十人

日 末村甚兵衛 貞好

美濃内り 高橋甚兵衛 忠雄

駿河内り 高橋甚兵衛 友樹

馬内り 高橋甚兵衛 友樹

全内り 赤松伴助 宗彦

多内り 松地十平次 少房

日 橋田新兵衛 政重

注 山内甚兵衛 秀富

監物 十人



横目付 神保五年 助休

正徳 十一年 先皇

日 奥田貞吉のりき

口 多岐左衛門七教義

日 村松三吉のりき

口 岩瀬孫五郎正吉

日 兼光 和久左衛門

口 横川勘平 宗利

日 三村信吉のりき

口 寺坂吉左衛門 伝吉

日 中津川半蔵のりき 父は足利の諫 うちうり 頼ハ 頼れり

日 美濃の者ろくろ かくるめハお代 美濃のりき 頼れり

日 乃山代走ハ事の外のりき ときこく 頼上 頼れり

日 討ハ大石父と知として 七人 頼上 頼れり 頼れり

かぞひ死人 半吉 半蔵 四十六人 頼上 頼れり 頼れり

美濃 美濃のりき 美濃のりき 美濃のりき 頼れり

捨使のりき 美濃のりき 美濃のりき 頼れり

七日ハ 美濃のりき 美濃のりき 頼れり

めしめて 美濃のりき 美濃のりき 頼れり

美濃のりき 美濃のりき 美濃のりき 頼れり

美濃のりき 美濃のりき 美濃のりき 頼れり

美濃のりき 美濃のりき 美濃のりき 頼れり

美濃のりき 美濃のりき 美濃のりき 頼れり



くはなふりしもなむるしきも海へ 武士のめいよきの為なる  
わたりしものくの浮海海をい人のたふしたくしき  
つらぬりしもの唇と見えぬはさうりき 卷首  
あふらふいよのまはるにけりきききき己の己の首  
年のこのまのゆきし金浪のさびら古去己のまを  
のこのはなとらるるき海へおまへてさびりとわん  
あれむたれしものさのさくまうえ  
どくしときい甲斐あり大石細川水ぬらん  
句のうに環境甲斐細川水ぬらん

大名へ下りくもつらなりとや海へお入りし  
ル景しはくして  
少将の末の頭 佐平の藤原 幸方の批判 泉無  
寺の番僧を口すさるるは本取実整と歌  
してくしりしもの外へく口と海へせし 狂句  
こそ雨さるるびすしきと皆たしきよのうそ  
つりしものさびしきしきしきしきし  
海へや好むしきも悪きしきりしきりし  
只海谷のひききしきしきしきしきしき



こころおぼの思ふ了りゆたしありハかの世中七人ハ  
清純の大名をとりしゆ縁がしりてもろく<sup>りく</sup>苦<sup>く</sup>し  
イマ流罪<sup>りゅうざい</sup>トク死罪<sup>しざい</sup>トク<sup>トク</sup>留<sup>りゅう</sup>せられハ説<sup>せつ</sup>する  
あまき<sup>あまき</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>か<sup>か</sup>ます<sup>ます</sup>大<sup>だい</sup>名<sup>な</sup>改<sup>か</sup>ま<sup>ま</sup>て<sup>て</sup>と<sup>と</sup>かん<sup>かん</sup>ま<sup>ま</sup>れ  
と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>清<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ハ<sup>ハ</sup>丁<sup>てい</sup>化<sup>け</sup>正<sup>せい</sup>月<sup>げつ</sup>二<sup>に</sup>日<sup>にち</sup>了<sup>りょう</sup>  
月<sup>つき</sup>代<sup>だい</sup>水<sup>すい</sup>風<sup>ふう</sup>各<sup>かく</sup>清<sup>せい</sup>光<sup>こう</sup>可<sup>か</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>り<sup>り</sup>く<sup>く</sup>人<sup>にん</sup>と<sup>と</sup>評<sup>ひやう</sup>せ<sup>せ</sup>し<sup>し</sup>に<sup>に</sup>彼<sup>かの</sup>  
ハ<sup>ハ</sup>北<sup>きた</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ん<sup>ん</sup>三<sup>さん</sup>月<sup>げつ</sup>信<sup>しん</sup>の<sup>の</sup>評<sup>ひやう</sup>定<sup>てい</sup>了<sup>りょう</sup>了<sup>りょう</sup>に<sup>に</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>大<sup>だい</sup>  
名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>とり<sup>り</sup>く<sup>く</sup>は<sup>は</sup>名<sup>な</sup>留<sup>りゅう</sup>香<sup>かう</sup>ち<sup>ち</sup>多<sup>た</sup>丹<sup>たん</sup>ね<sup>ね</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>ち<sup>ち</sup>多<sup>た</sup>長<sup>ちやう</sup>田<sup>でん</sup>  
香<sup>かう</sup>ち<sup>ち</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>上<sup>じやう</sup>三<sup>さん</sup>人<sup>にん</sup>信<sup>しん</sup>を<sup>を</sup>ト<sup>ト</sup>ク<sup>ク</sup>の<sup>の</sup>口<sup>くち</sup>上<sup>じやう</sup>了<sup>りょう</sup>

海内區家来へ信を渡されハ上意内區改修<sup>かきしゆ</sup>物<sup>もの</sup>候<sup>けう</sup>  
清純走乃清軍修せもてりきて<sup>しん</sup>時<sup>とき</sup>長<sup>ちやう</sup>慶<sup>けい</sup>中<sup>ちゆう</sup>と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ん<sup>ん</sup>  
石<sup>いし</sup>田<sup>でん</sup>乃<sup>の</sup>清<sup>せい</sup>軍<sup>ぐん</sup>修<sup>しゆ</sup>せ<sup>せ</sup>も<sup>も</sup>て<sup>て</sup>り<sup>り</sup>きて<sup>きて</sup>時<sup>とき</sup>長<sup>ちやう</sup>慶<sup>けい</sup>中<sup>ちゆう</sup>と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ん<sup>ん</sup>  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ん<sup>ん</sup>指<sup>さし</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>信<sup>しん</sup>の<sup>の</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>雙<sup>すわう</sup>と<sup>と</sup>執<sup>しやく</sup>す<sup>す</sup>と<sup>と</sup>中<sup>ちゆう</sup>内<sup>ない</sup>區<sup>く</sup>  
改<sup>か</sup>修<sup>しゆ</sup>家<sup>か</sup>来<sup>らい</sup>中<sup>ちゆう</sup>七<sup>しち</sup>人<sup>にん</sup>徒<sup>と</sup>黨<sup>たう</sup>修<sup>しゆ</sup>了<sup>りょう</sup>上<sup>じやう</sup>意<sup>い</sup>書<sup>しよ</sup>に<sup>に</sup>押<sup>おし</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>候<sup>けう</sup>  
具<sup>ぐ</sup>向<sup>かう</sup>と<sup>と</sup>改<sup>か</sup>修<sup>しゆ</sup>し<sup>し</sup>討<sup>たう</sup>ひ<sup>ひ</sup>始<sup>し</sup>末<sup>まつ</sup>ハ<sup>ハ</sup>信<sup>しん</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>口<sup>くち</sup>上<sup>じやう</sup>  
重<sup>ちゆう</sup>く<sup>く</sup>言<sup>げん</sup>預<sup>よ</sup>乃<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>口<sup>くち</sup>上<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>口<sup>くち</sup>上<sup>じやう</sup>切<sup>き</sup>腹<sup>はら</sup>中<sup>ちゆう</sup>修<sup>しゆ</sup>了<sup>りょう</sup>  
あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>口<sup>くち</sup>上<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>口<sup>くち</sup>上<sup>じやう</sup>又<sup>また</sup>同<sup>どう</sup>修<sup>しゆ</sup>了<sup>りょう</sup>吉<sup>きち</sup>良<sup>りやう</sup>左<sup>さ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>



沙路内區邊妻上登と討ひ良友を此に好むかきよ  
 源比めくしり多しき 源後安藤多事(水)乃山寺上登  
 妻之のまじりハサのふりて 疎うらり内中山好登  
 うら首せのふのむくハさくハのうらひあふふらひ  
 了後智くせしきくさく 黙れを巳午七夫の哀  
 せやう何をもまふしつらすくらの 晩景日ハ西の  
 了入おのけめと野の 霧とふりし 桑田寺の森  
 のりしりしつらうの けりさきとるもろくもはなが  
 おしれを 推しならぬ 感候の袖せあけしらるる

見し少きハ人の 萬物の靈をれとめいふまて天地乃  
 動もはるるなるしりしるまへのまらう、  
 無手墓取の率免獎末並のあふる人 喜と差し  
 きあふるまのあふり毛ゆあく 飛きてまら  
 了りていさりの人毛眉とひそめハに又致物ハ  
 了く還り山丘とあふりし 移入鳴りし  
 了人肝とひやハねハ巳午七良の末ひりしるあり  
 了くさるひ 曉すはるの 映りし 侘の始せり告  
 妻の皆人らあつべきと 反りいふづりめく 左感 羨ハ



由くに天神心祇もあられうおわしやうるまを  
物うさ偏入とひゆるき大石内蔵少法名忠誠院  
又空海劍者土と号し其の外の字主人一様に上  
り又の部下り劔の勢せけりまし間新と  
或骸ハ秋元但馬守殿家中に取張の者ありて  
まゝいふるとまゝに内通法名冷光院殿前  
少府朝散吹毛舍利大居士と号すなり大居士の  
石塔や中にさく風ありて半立塔とまじりて  
せれりまゝはまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

日長門内門外より市とせり細川殿より吊料  
中へ白銀三十枚清河のうらちの地走るを  
わうりまゝに内くより銀五十枚寄せられ  
しころ餘の三取の大名えりハ白銀二十枚諸  
名えりまゝに内くより三枚ありて板屋六人の  
者金よりあつて裸著りては多かりて是吊料の  
ゆゑにまゝにれを致す寺りたなりあり右の金根  
より金七末代の新のまゝに冥麗ありてありて  
山門を後復せりりて起るの詩哥とてあり



了りし中了 儒林 林家の某氏

去歲季冬 故少府監 林穗塚 津守長 維の守

大石内 弟人等 四十六人 異體 同志 報讐

趨義 今茲 仲春 初四日 官裁 不令 各處 久

刑 其志 雖逐 其性 不令 天平 命午 將時 運平

維堪 哀情 故淚 而作

關門 突入 茂荆 知 易水 風寒 壯士 情

炭啞 形表 追豫 讓 蕪歌 淚滴 挽田 橫

猜誠 貫日 以何 悔 義氣 拔山 牛不 輕

四十六人 肩伏 又 上天 志 佐忠 貞

又句頭了 大石 良雄 忠節 名ま 子八 字と 冠

安し 四十六人 の 義 良等 と 追悼 了

叢林 沙門 凶名

大支 一謀 如響 應 石堅 盟會 烈丈 心

良籌 運張 勝千里 雄力 拔山 擲万 尋

忠仰 君恩 曾撫 劍 節臨 自殺 也彈 琴

名碑 册六 何當 朽 士女 口傳 遺恨 深

号と 句臥了 寇 一して 海燈 遺臣 等と 挽



る 觀とけい

例門名

大勲燿々新臣道

石針堂刺鉄石心

良讓在懷おる最

雄雌鳴匣勇追尋

忠宣伏劔不顧己

節應辭朋預破琴

名翼四飛無處隱

士林盡真又窮深

この義臣等先君ヲノれられしとてこの世に

かゝりし所し武府よりあまう故にせん

つる所ハ世とて一統のやうにすゝめびりるの

てうやうし又世上の評并とすつらぶめ天と

邦とよめしつらんハしむとくまじし百千の謀

をばきし人ロらゆると亮なくよまじす

今くに記さるるのハ世の大切とひくまじし始

つる所しなす誦ん人おとひく畧せ

この陽切のそらやうしりすとすくこの陰謀

強きつらと推してさる

大坂のよまじりといひ自滅す

大坂あ士町の承貴をさるるを命にさるる

少着し事とすしナ業うらとて居し



されりし一又その可貴を命に命の付不品りひ  
 けきておとするまのそくちりて勤を多せ進んで  
 親達乳母より所まぶゆの是非もくし之  
 とも品ゆくの字れんその等しくしは勤  
 ぶいしく着おぐもねりせび八冥達黄泉の倍  
 しるん所心やそうれとくくひかりせしに経く  
 はねくそくちりし勤を命ハ一人の一家げし  
 くの云りきく一日ときて二階より下りて  
 肌ぬぎ左の服より服捨て洗ひまてく衣の

のまの引由り鳩尾より瞬の下まて十又まに  
 切て既とやきくに骨も切まてりしその方はお  
 しつらとそその服捨て杖よりつぎ登りし  
 けり或下服捨め切えは五分の切りおし  
 家内ねとろきと備へししうは検使まて我  
 等いくとびら自害せしとえしにやけけら  
 ありちるまひせんとよすと奪りある和州又  
 妙の所りしがい作とて日妻の所縁ん志強り  
 ち心むせりていとけさきくやせし



一画の書ときりし不浄事あり石を石見との  
扱見一一多ふ了了文体も切なりくまの字を  
乃供せふりの文ありれを殿も候了り也  
きぬひく了了不便マ今由ハ或生にもや所まのハ  
おちるせく向して町人のりくといひ若たして  
ありと凡希代の者く多端うり吊てろせめや  
修きき一即ち石坂塔千日寺了了室庭の石  
塔一取了了立一了了也けり延宝五年四月  
了了りし

母とつとめ水了了入る

江戸小町町のりりしにりる者の後室の年七八  
りりしが朝夕了了了了粉でぬり紅とろへ衣裳  
了了了了了了今了了の同候せしりりしハ老  
ス也りりハ神祕詣で寺ぬりりりり毎日  
の身がうりりれを世のりりり人の嘲やびくも  
りりりりりり了了了了業をりりりりりりりりり  
りりりりりり厭いりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり



承引もせざるはれをせん方よりマ思ひらん書<sup>ク</sup>て  
新んじ流<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>調へ<sup>レ</sup>海<sup>ノ</sup>島<sup>ノ</sup>橋<sup>ノ</sup>の上<sup>ノ</sup>より<sup>レ</sup>身<sup>ヲ</sup>せ<sup>レ</sup>千<sup>ノ</sup>俵<sup>ノ</sup>の水<sup>ヲ</sup>  
磨<sup>リ</sup>了<sup>レ</sup>投<sup>リ</sup>一<sup>ノ</sup>万<sup>ノ</sup>何<sup>ノ</sup>も<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>流<sup>ル</sup>ん<sup>レ</sup>洗<sup>ハ</sup>も<sup>レ</sup>妙<sup>ニ</sup>川<sup>ノ</sup>上<sup>ニ</sup>  
流<sup>ル</sup>ま<sup>シ</sup>り<sup>レ</sup>約<sup>ク</sup>形<sup>ノ</sup>堂<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>邊<sup>ニ</sup>は<sup>レ</sup>そ<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>引<sup>リ</sup>所<sup>ノ</sup>分<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>も  
或<sup>ハ</sup>は<sup>レ</sup>毛<sup>ヲ</sup>や<sup>リ</sup>で<sup>レ</sup>親<sup>ク</sup>布<sup>キ</sup>て<sup>レ</sup>ね<sup>ら</sup>う<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>れ<sup>を</sup>母<sup>ノ</sup>口<sup>ノ</sup>巧<sup>ク</sup>ま<sup>ら</sup>し  
ゆ<sup>ん</sup>か<sup>く</sup>了<sup>レ</sup>所<sup>ノ</sup>所<sup>ノ</sup>れ<sup>て</sup>少<sup>ク</sup>り<sup>ハ</sup>お<sup>し</sup>世<sup>ヲ</sup>と<sup>ら</sup>ま<sup>り</sup>の<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>して<sup>レ</sup>髪<sup>ヲ</sup>  
と<sup>き</sup>り<sup>ノ</sup>様<sup>ノ</sup>と<sup>ら</sup>へ<sup>テ</sup>後<sup>ニ</sup>世<sup>ニ</sup>三<sup>ノ</sup>昧<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>人<sup>ト</sup>も<sup>レ</sup>う<sup>ら</sup>づ<sup>き</sup>  
極<sup>ク</sup>悟<sup>ル</sup>の<sup>レ</sup>風<sup>ノ</sup>時<sup>ノ</sup>と<sup>ま</sup>ら<sup>ず</sup>賤<sup>ク</sup>と<sup>て</sup>献<sup>ス</sup>  
松平相模<sup>ノ</sup>ち<sup>も</sup>内<sup>ノ</sup>津<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>如<sup>ク</sup>意<sup>ニ</sup>よ<sup>つ</sup>き<sup>レ</sup>惣<sup>ノ</sup>取<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>ヤ

合<sup>セ</sup>知<sup>リ</sup>も<sup>ら</sup>う<sup>レ</sup>趣<sup>ク</sup>し<sup>テ</sup>金<sup>ノ</sup>ま<sup>ら</sup>れ<sup>ク</sup>に<sup>レ</sup>拾<sup>上</sup>り<sup>ノ</sup>に<sup>レ</sup>  
竹<sup>ノ</sup>村<sup>ノ</sup>甚<sup>ク</sup>な<sup>ら</sup>む<sup>レ</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>レ</sup>二<sup>百</sup>石<sup>ノ</sup>と<sup>ら</sup>ぬ<sup>レ</sup>づ<sup>り</sup>極<sup>メ</sup>て<sup>レ</sup>悟<sup>ル</sup>し<sup>き</sup>  
人<sup>ト</sup>も<sup>レ</sup>越<sup>ス</sup>る<sup>レ</sup>是<sup>ノ</sup>名<sup>ノ</sup>め<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>燒<sup>ケ</sup>地<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>外<sup>ノ</sup>粕<sup>ノ</sup>味<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>味<sup>ヲ</sup>  
と<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>レ</sup>ば<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>程<sup>ノ</sup>了<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>人<sup>ノ</sup>所<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>つ<sup>も</sup>一<sup>ノ</sup>向<sup>ノ</sup>に<sup>レ</sup>あ<sup>ら</sup>り  
し<sup>レ</sup>お<sup>し</sup>は<sup>レ</sup>度<sup>ノ</sup>訪<sup>レ</sup>へ<sup>レ</sup>一<sup>ノ</sup>ハ<sup>ノ</sup>某<sup>ノ</sup>が<sup>レ</sup>禄<sup>ノ</sup>十<sup>ノ</sup>石<sup>ノ</sup>納<sup>メ</sup>り<sup>ノ</sup>き<sup>ま</sup>す  
と<sup>ら</sup>る<sup>レ</sup>軍<sup>ノ</sup>級<sup>ノ</sup>又<sup>ハ</sup>法<sup>ノ</sup>式<sup>ノ</sup>等<sup>ノ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>お<sup>つ</sup>て<sup>レ</sup>あ<sup>ら</sup>れ<sup>り</sup>  
白<sup>銀</sup>三<sup>十</sup>貫<sup>目</sup>所<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>上<sup>ノ</sup>座<sup>ノ</sup>と<sup>レ</sup>ひ<sup>き</sup>ん<sup>ノ</sup>又<sup>ハ</sup>流<sup>ル</sup>り<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>座<sup>ノ</sup>  
殿<sup>ノ</sup>せ<sup>し</sup>し<sup>レ</sup>め<sup>レ</sup>羣<sup>ノ</sup>臣<sup>ノ</sup>と<sup>ら</sup>ぬ<sup>レ</sup>一<sup>ノ</sup>と<sup>ら</sup>ぬ<sup>レ</sup>一<sup>ノ</sup>と<sup>ら</sup>ぬ<sup>レ</sup>も  
件<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>流<sup>ル</sup>り<sup>ノ</sup>ハ<sup>レ</sup>法<sup>ノ</sup>士<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>例<sup>ノ</sup>と<sup>ら</sup>ぬ<sup>レ</sup>一<sup>ノ</sup>と<sup>ら</sup>ぬ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>一<sup>ノ</sup>と<sup>ら</sup>ぬ<sup>レ</sup>も



きりぎりしとるる

親<sup>おや</sup>もつ<sup>と</sup>父母<sup>ふぼ</sup>了<sup>り</sup>見<sup>み</sup>ん<sup>る</sup>と<sup>て</sup>祈<sup>いの</sup>す

ほり口<sup>くち</sup>谷<sup>や</sup>了<sup>り</sup>推<sup>おし</sup>田<sup>でん</sup>庄<sup>じょう</sup>ち<sup>り</sup>と<sup>て</sup>清<sup>せい</sup>條<sup>じょう</sup>の<sup>の</sup>由<sup>ゆ</sup>を<sup>も</sup>人<sup>ひと</sup>を

幼<sup>わか</sup>の<sup>の</sup>時<sup>とき</sup>父<sup>ちち</sup>母<sup>はは</sup>了<sup>り</sup>た<sup>ら</sup>れ<sup>ば</sup>顔<sup>かほ</sup>を<sup>も</sup>て<sup>て</sup>笑<sup>わら</sup>ひ<sup>た</sup>る<sup>る</sup>を

あ<sup>は</sup>く<sup>く</sup>嘆<sup>なげ</sup>き<sup>き</sup>に<sup>に</sup>元<sup>げん</sup>祿<sup>ろく</sup>十<sup>じゅう</sup>三<sup>さん</sup>年<sup>ねん</sup>の<sup>の</sup>甚<sup>た</sup>は<sup>は</sup>西<sup>さい</sup>議<sup>ぎ</sup>滅<sup>めつ</sup>

の<sup>の</sup>親<sup>おや</sup>を<sup>も</sup>護<sup>ご</sup>あ<sup>あ</sup>了<sup>り</sup>了<sup>り</sup>八<sup>はち</sup>十<sup>じゅう</sup>日<sup>にち</sup>の<sup>の</sup>岡<sup>おか</sup>帳<sup>ちやう</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>に

毎<sup>まい</sup>日<sup>にち</sup>美<sup>み</sup>お<sup>の</sup>の<sup>の</sup>願<sup>ねん</sup>を<sup>を</sup>發<sup>はつ</sup>し<sup>し</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>父<sup>ちち</sup>母<sup>はは</sup>よ<sup>よ</sup>て<sup>て</sup>び<sup>び</sup>を<sup>を</sup>

顔<sup>かほ</sup>を<sup>も</sup>又<sup>また</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>り<sup>り</sup>せ<sup>せ</sup>辞<sup>ことば</sup>を<sup>を</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>と<sup>と</sup>一<sup>いつ</sup>心<sup>しん</sup>了<sup>り</sup>

念<sup>ねん</sup>求<sup>もと</sup>せ<sup>せ</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>五<sup>ご</sup>日<sup>にち</sup>了<sup>り</sup>了<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>め<sup>め</sup>了<sup>り</sup>親<sup>おや</sup>も<sup>も</sup>の

了<sup>り</sup>了<sup>り</sup>孝<sup>きょう</sup>行<sup>ぎやう</sup>す<sup>す</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>け<sup>け</sup>了<sup>り</sup>了<sup>り</sup>十<sup>じゅう</sup>德<sup>とく</sup>も<sup>も</sup>了<sup>り</sup>了<sup>り</sup>禪<sup>ぜん</sup>門<sup>もん</sup>を

了<sup>り</sup>了<sup>り</sup>と<sup>と</sup>見<sup>み</sup>ゆ<sup>り</sup>り<sup>り</sup>我<sup>われ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>が<sup>が</sup>父<sup>ちち</sup>を<sup>を</sup>終<sup>しゆう</sup>了<sup>り</sup>也<sup>や</sup>毎<sup>まい</sup>日<sup>にち</sup>

と<sup>と</sup>結<sup>むす</sup>せ<sup>せ</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>辞<sup>ことば</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>せ<sup>せ</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>孫<sup>まご</sup>信<sup>のぶ</sup>公<sup>こう</sup>

い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>祈<sup>いの</sup>り<sup>り</sup>も<sup>も</sup>れ<sup>れ</sup>バ<sup>バ</sup>三<sup>さん</sup>十<sup>じゅう</sup>日<sup>にち</sup>に<sup>に</sup>了<sup>り</sup>了<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>め<sup>め</sup>了<sup>り</sup>

ゆ<sup>ゆ</sup>め<sup>め</sup>了<sup>り</sup>了<sup>り</sup>母<sup>はは</sup>了<sup>り</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>め<sup>め</sup>の<sup>の</sup>行<sup>ぎやう</sup>し<sup>し</sup>せ<sup>せ</sup>の<sup>の</sup>貴<sup>たか</sup>さ<sup>さ</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>せ<sup>せ</sup>

一<sup>いつ</sup>里<sup>り</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>め<sup>め</sup>了<sup>り</sup>了<sup>り</sup>都<sup>みやこ</sup>合<sup>がっ</sup>三<sup>さん</sup>百<sup>ひゃく</sup>度<sup>ど</sup>免<sup>めん</sup>之<sup>の</sup>法<sup>ほう</sup>

し<sup>し</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>



